

令和6年度町立西和賀さわうち病院の臨床指数

令和7年6月15日 町立西和賀さわうち病院 顧問 北村道彦

公表の目的：

病院の各種臨床指数を公表することにより、職員間で病院の現状と問題点を共有し改善活動につなげる。さらに、住民、町の関係者にも病院の現状と問題点を知ってもらうことにより、住民参加、オール西和賀体制、すなわち、かつて昭和30年代に旧沢内村で深澤晟雄村長が提唱した『一体態勢』の構築を目指したい。今回は、ベンチマーキングのための参考文献として日本病院会の2023年度QIプロジェクトの全国集計結果をできる限り引用した。従来、引用していた聖路加国際病院の指標の引用は終了した。

1. 医事関連

1) 入院患者統計、入院患者の平均年齢

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
新入院 患者数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398
新退院 患者数	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375	383	393
在院延 べ患者 数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,752	9,096	8,968	9,069	8,294	6,910	7,327
入院延 べ患者 数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717
1日平 均在院 患者数	12.5	16.7	26.1	26	25.2	26.7	24.9	24.6	24.8	22.7	18.9	20.1
1日平 均入院 患者数	13.1	17.6	27.2	27.2	26.2	27.9	26	25.7	26	23.7	19.9	21.1
病床 利用率 (%)	31.3	41.8	65.1	65.1	63	66.8	62.1	61.4	62.1	56.8	47.2	50.2
病床稼 働率 (%)	32.8	44.1	68	67.9	65.5	69.7	65	64.3	65	59.4	49.8	52.9
平均在 院日数 (日)	22.1	18.4	22.6	22.7	24.4	23.3	21.8	21.1	20.9	22.6	18.4	18.5

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入院 患者 総数	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398
男	101	163	195	186	174	185	175	181	179	169	152	161
女	103	174	230	232	206	234	239	242	264	197	220	237
平均 年齢	79.1 歳	79.6 歳	80.5 歳	80.7 歳	82.1 歳	81.3 歳	82.1 歳	82.0 歳	82.4 歳	83.8 歳	83.8 歳	84.7 歳

解説；入院患者数は、コロナ感染症の蔓延の影響で大きく落ち込んだ令和5年度から回復傾向を示しているが、病床稼働率は53%とまだ低い。当面は病床稼働率60%を目標に、病院を挙げて取組んでいきたい。入院患者の高齢化は定常化し、令和6年度の入院患者の平均年齢は85歳まで上昇した。入院患者の高齢化に伴い、退院支援、退院調整に要する時間が増加している。平均在院日数は、18.5日で令和5年度と変わりなかった。

2) 入院統計

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
自宅	148	221	235	260	251	275	251	260	266	205	217	245
医院(町内)	15	25	55	38	34	45	58	34	50	40	27	29
病院	18	41	61	50	48	55	55	56	64	57	54	44
施設	23	50	74	70	47	44	50	73	63	64	74	80
合計	204	337	425	418	380	419	414	423	443	366	372	398

解説：入院先では、例年通り自宅が圧倒的に多い。令和6年度は、病院からの紹介が若干減り介護施設が増加する傾向があり、今後の傾向を注視したい。

3) 町外からの入院数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
4	10	20	8	13	8	8	11	15	16	8

解説；町外からの患者は8名で、ここ4年間では一番少なかった。北上地区に新しく開設された施設の影響と考えられる。同じ圏域である北上地域からの入院受け入れは、当院の大切な使命である。基幹病院の機能維持のために、近接する北上市和賀地区、横手市山内地区などの患者受け入れを積極的に行って行きたい。

4) レスパイト入院

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
延べ入院数	15 名	19 名	8 名	15 名	10 名	9 名	8 名
延べ入院日数	191 日	223 日	70 日	191 日	168 日	103 日	87 日
平均在院日数	12.7 日	11.7 日	8.8 日	12.7 日	16.8 日	11.4 日	10.9 日

解説：レスパイト入院は平成 29 年 12 月から開始した。令和 6 年度の受入数は 8 名と多くはなかったが、介護ニーズが高いこの町で、介護者の負担軽減のためなどのレスパイト入院は必要である。今後も医療ニーズの高い方を中心にレスパイト入院の受け入れを続けたい。令和 6 年度の平均在院日数は 10.9 日と適正と考えられる。

5) 退院統計

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
自宅	148	215	229	261	226	270	238	258	241	182	203	226
医院(町内)	1	18	26	25	11	31	38	22	29	22	16	19
病院	19	21	46	34	53	42	51	30	54	52	44	39
施設	24	34	78	61	45	46	55	74	59	70	76	71
死亡	18	38	40	37	40	34	38	43	43	49	44	38
合計	210	326	419	418	375	423	420	427	426	375	383	393

解説；自宅退院が多く、町内の医院への紹介は例年通りであった。病院への紹介、施設入所退院数は例年通りであった。死亡退院数は 38 名と例年通りであった。

6) 科別外来患者統計

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
内科	8,830	9,455	9,682	9,310	9,090	9,104	8,562	9,201	9,252	8,765	8,900
外科	7,059	7,068	6,457	6,540	6,382	6,052	5,653	5,561	4,638	4,211	4,174
眼科	1,343	1,354	1,318	1,235	1,256	1,216	1,036	1,235	1,197	1,185	1,226
小児科	185	262	222	221	175	176	99	73	250	121	132
訪問	143	103	61	82	44	80	176	186	216	210	268
施設(ぶなの園)	767	684	714	748	761	709	671	736	706	742	715
神経内科			237	250	226	195	274	231	241	222	195
皮膚科	575	717									
耳鼻咽喉科	154	338	367	340	359	351	282	337	300	326	322
泌尿器科	122	344	423	424	363	401	390	474	458	381	419
整形外科	136	472	600	651	773	1,040	992	957	846	863	840

腎臓内科			47	128	178	172	145	112	81	51	41
循環器内科		40	125	113	108	121	92	95	114	120	116
禁煙外来					12	17	18	3	3	7	7
透析	2,270	2,514	2,748	3,009	3,082	2,966	2,955	2,733	2,212	2,183	2,060
健診・特定健診・ 人間ドック	427	429	400	417	370	373	343	367	368	377	360
歯科	7,312	7,291	7,396	7,424	7,784	7,621	6,351	6,674	6,807	6,286	6,346
認知症外来（再 掲）	22	446	486	654	756	842					
リハビリ（再掲）	2,747	2,342	1,353	1,382	967	714	755	723	221	371	461
合計	29,323	31,071	30,797	30,892	30,963	30,594	28,039	28,975	27,689	26,050	26,121

解説；各科の患者数は全体的には令和5年度と同様であった。その中で、訪問診療件数は増加している。透析患者の割合が県の平均より多い当町では、腎臓内科による透析回避診療が重要であり、今後、増加が期待される。リハビリは、入院患者減少に伴い増加傾向にある。

7) フットケア外来実績

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	DM加算		18	23	37	38
	爪甲除去		132	129	198	203
	胼胝・鶏眼処置		69	51	92	113
	総数	156	219	203	327	354
点数	DM加算		3,060	3,910	6,290	6,460
	爪甲除去		7,920	7,740	11,880	13,910
	胼胝・鶏眼処置		11,730	8,670	15,640	19,210
	総数	15,180	22,710	20,320	33,810	39,580

解説：フットケア外来は、令和2年度から実績を集計している。糖尿病性足病変を視野に入れながら、実際は白癬菌症、疣贅、巻爪などが対象の多くを占めている。患者ニーズが高い領域であり、毎年実施数が増加している。

8) 診療単価（単位：円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入院	24,778	21,447	23,247	23,199	22,130	23,647	24,915	31,685	33,011	33,973	35,086	35,443
外来	8,869	9,307	9,632	9,469	9,504	9,003	8,746	9,076	9,182	9,880	9,533	9,053
歯科	5,771	5,732	5,719	5,784	5,840	5,900	6,282	6,977	7,315	8,405	9,218	9,044

解説；入院の診療単価は、令和5年度と同等であった。外来の診療単価は、コロナ感染症の高価な治療薬の影響を脱しつつある。歯科の診療単価は医科と同等で立派である。

9) 経営収支（単位：千円）

区分	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
1. 医業収益	406,948	449,400	571,779	564,906	546,432	563,322	553,306	603,523	640,103	626,635	567,803	577,771
1) 入院収益	113,336	137,949	231,467	229,973	211,784	240,463	236,916	297,391	313,310	294,409	255,639	273,510
2) 外来収益	216,331	242,798	266,626	260,584	262,444	251,280	245,521	238,031	250,216	259,888	242,763	233,155
収益合計	619,294	816,809	875,071	872,492	862,081	892,710	908,130	932,036	935,212	946,033	917,408	949,631
うち一般会計繰入	239,569	374,984	275,136	270,161	279,704	282,623	287,856	270,118	239,464	260,166	311,918	342,434
2. 医業費用	624,932	858,067	963,860	963,147	975,676	941,367	939,561	959,755	951,743	954,501	958,835	1,009,906
1) 給与費	364,596	482,752	497,289	483,479	475,576	486,397	518,893	538,528	569,978	577,141	567,598	613,019
2) 材料費	73,901	101,559	102,813	96,613	97,787	74,392	72,297	72,668	74,566	86,115	73,463	70,943
費用合計	634,235	881,610	983,759	982,407	995,459	943,192	941,277	966,110	953,370	978,557	982,750	1,033,376
事業損益	-14,941	-64,801	108,688	109,915	33,378	-50,483	-33,147	-34,074	-18,158	-32,524	-65,342	-83,745

解説；令和6年度の入院収益は患者増加に伴い若干増加したが、給与費を中心に医業費用が増加し、収支は悪化している。昨年度に引き続き入院患者増加が最大の課題である。

10) ケアマネージャーとの連携

連携シートの発行状況

ケアマネから病院 へ	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
発行数	39	43	44	65	80	71	86	101	105	128
対象者	229	207	189	246	245	255	267	277	240	274
発行率	17%	21%	23%	26%	33%	28%	32%	36%	44%	47%
病院からケアマネ へ	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
発行数	108	113	85	142	121	113	115	119	128	117
対象者	208	199	155	218	224	248	231	227	262	255
発行率	52%	57%	55%	65%	54%	46%	50%	52%	49%	46%

サマリーを含めた情報連携状況

ケアマネから病院へ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
発行数	147	143	160	166	145	176
対象者	245	255	267	274	240	274
発行率	60%	56%	60%	61%	60%	64%
病院からケアマネへ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
発行数	190	189	204	210	254	246
対象者	224	248	231	227	262	255
発行率	85%	76%	88%	93%	97%	96%

解説：ケアマネージャーから病院への情報提供は増加傾向にある。病院からケアマネージャーへの情報発信はサマリーを代用することで、十分になされている。

11) 転院患者入院時カンファランス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
転院患者総数	41	61	50	51	55	55	57	64	56	54	40
カンファランス施行数	38	51	41	35	45	39	39	45	33	37	28
施行率	93%	84%	82%	69%	82%	71%	68%	70%	59%	69%	70%

参加職種	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医師	-	54	46	54	59	46	43	51	39	50	37
看護師	-	95	109	68	72	50	43	53	40	41	33
MSW	-	49	41	35	45	39	39	45	30	36	28
リハビリ技士	-	46	40	32	52	40	38	46	33	37	27
管理栄養士	-	37	32	23	32	28	4	4	4	1	1

参加者	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
患者本人	-	10	9	3	6	20	14	16	9	14	13
家族	-	89	75	56	80	64	57	61	60	64	38
ケアマネ	-	22	23	18	20	18	19	23	14	17	9
包括支援センター・町職員	-	18	3	3	8	15	13	13	1	4	11

解説：転院患者の入院時カンファランスは、平成26年4月から開始した。多くは急性期病院である前医での説明とその内容の患者家族の受け止め方や患者家族の思いなどを確認し、当院での治療の目標を共有する重要な場となっている。中間期目標の設定や、時間管理を行うことも多く、退院支援、退院調整を進めるうえで、欠くことができない集まりになっている。令和6年度のカンファランス実施率は70%で令和5年度と同等であった。参加職種のコアメンバーは、医師、看護師、MSW、リハビリ技士である。患者側は、家族とケアマネージャーが中心で、介護保険未申請の場合などは包括支援センターや町の職員が参加している。本人の参加が増えることを期待している。

12) 病院救急車

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総数		4	12	8	7	5	22	10	11	4
内 訳	転院	0	11	7	6	1	8	8	6	4
	通院	2	0	0	0	0	9	0	3	0
	一時帰宅	1	1	1	0	0	4	0	2	0
	自宅退院	1	0	0	1	4	1	2	0	0

解説：独居や高齢者同士の世帯が多い高齢の町では、転院や自宅への退院の際の交通手段の確保は大きい課題であり、病院救急車の運用は非常に重要である。令和6年度は4名と少なかった。

13) 未収金

発生時期	～平成10年	平成11年～平成20年	平成21年～平成25年	平成26年～平成29年	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人数	1	8	2	1	0	0	0	0	0	0	0
未収金残額(円)	32,310	306,610	175,448	17,490	0	0	0	0	0	0	0

解説：未収金を減らすことは、町立病院の重要なミッションである。平成30年度以降、未収金は適正である。

14) 訪問診療、訪問看護

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
介護保険	訪問看護	590	137	218	191	179	127	60	105	135	168	158
	居宅療養管理指導	97	54	46	40	35	67	148	153	164	170	195
医療保険	訪問看護	3	12	6	31	2	0	4	17	22	25	52
	訪問診療	97	56	51	47	51	66	166	161	187	193	219

解説；平成26年度から、入院患者の増加を病院運営の柱とした。そのため、訪問診療、訪問看護の例数は大きく減少していた。令和2年度から包括ケア病床を導入し、その運用の条件として訪問診療が必要であり、件数はその後急増している。改めて振り返ると、高齢の町では訪問診療、訪問看護医療ニーズは大きく、今後も継続したい。

15) 夜間診療、オンライン診療

夜間診療

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
35	36	42	29	22	20	16	20	15	17

オンライン診療

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人数	3	3			6
延べ回数	9	7	227	41	6

解説；夜間診療は住民の要望を受けて、平成27年1月から開始した（月1回、第2火曜日）。症例数の増加は認められず、対策が必要である。オンライン診療は、新型コロナウイルス感染症の蔓延対策として導入、令和4年度は激増したが、新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い急激に減少している。

16) 死亡統計、施設、在宅看取り件数

死亡統計

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
診断書	40	47	41	44	45	48	50	43	45	56	54	73	65	56
検案書	10	3	6	8	7	0	4	4	7	5	3	2	2	3
計	50	50	47	52	52	48	54	47	52	61	57	75	67	59

施設、在宅看取り件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ぶなの園	2	3	7	7	6
ゆいっこ	0	0	0	1	0
在宅	2	0	6	7	8

解説；死亡者数は、令和4、5年度はコロナ禍の影響があり急増した。令和6年度は例年に近い数字となっている。令和4年以降取り組んでいる嘱託契約を行っている特養施設のぶなの園や在宅看取りは順調に症例数を重ねている。これらの取り組みには、令和4年4月に活動を開始した緩和ケアチーム（緩和ケア委員会）の関与が大きな力になっている。

17) エンドロールカファ

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
8例	4例	5例	12例	10例	15例	12例

解説：エンドロールカンファと名称をつけたデスクカンファは、終末期治療の充実を目的として平成 29 年から開催している。小原院長の専門的指導のもとでの終末期の個々のケアの振り返りとして重要な取り組みである。研修医教育の一環とも位置づけており、月 1 回の定期的な開催を継続している。

18) 手術室対応手術数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
外来	9	3	5	7	4	11	5	5	9	5	12	3
病棟	1	2	10	21	25	19	14	9	5	10	3	4
合計	10	5	15	28	29	30	19	14	14	15	15	7
医師延人数	10	10	25	42	50	52	32	24	20	28	19	16
スタッフ延人数	24	24	42	95	73	58	44	32	32	30	30	18

解説；手術室施行の手術件数は、最近は 15 例前後で推移していた。令和 6 年度は 7 例と少なかった。当院は外科医が確保されており、今後とも積極的に小手術を行なっていきたい。

19) 内視鏡数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
上部内視鏡	162	134	165	174	139	162	140	171	140	169	157	176
胃瘻	5	10	11	7	4	17	8	15	8	10	3	2
下部内視鏡	42	43	61	98	43	55	62	67	71	64	73	63
ポリープ切除	0	0	1	9	0	0	0	0	3	1	8	8

解説；山下医師と中野医師の応援診療により、内視鏡施行症例数は維持されている。胃瘻のニーズにも十分対応できているが、令和 6 年度は 2 例と少なかった。胃瘻の実施は ACP と関連しており、施行数の推移に関してはクリニカルパスを導入して実施している大腸ポリープ切除は、令和 5、6 年度はそれぞれ 8 例と定着している。

20) 査定

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度 4- 11 月
入 院	請求 点数	19,360,036	21,218,793	20,201,042	22,144,304	22,046,984	28,955,226	29,601,829	28,113,154	24,716,592	18,414,693
	査定 点数	37,234	41,929	24,724	16,129	33,280	12,321	6,796	193,036	97,043	536
	査定率	0.19%	0.20%	0.12%	0.07%	0.15%	0.04%	0.02%	0.69%	0.39%	0.00%

外 来	請求 点数	20,252,317	21,549,861	22,116,095	20,267,161	19,476,612	19,258,301	19,889,366	20,046,556	18,465,636	11,819,063
	査定 点数	57,390	34,161	33,259	31,559	27,390	23,654	28,467	38,448	24,343	26,936
	査定率	0.28%	0.16%	0.15%	0.16%	0.14%	0.12%	0.14%	0.19%	0.13%	0.23%
合 計	請求 点数	39,612,353	42,768,654	42,311,082	424,114,654	41,523,596	48,213,527	49,491,195	48,159,710	43,182,228	30,233,756
	査定 点数	94,624	76,090	57,983	47,688	60,670	35,975	35,263	231,484	121,386	27,472
	査定 点数率	0.24%	0.18%	0.14%	0.11%	0.15%	0.07%	0.07%	0.48%	0.28%	0.09%

解説：病院を挙げて査定減に取り組んでおり、全体的には成果が上がりつつある。令和2年度と3年度は初めて0.1%以下に下がったが、令和4、5年度は、新型コロナウイルス感染症関連の査定が急増し入院、外来とも増加した。令和6年度は0.09%と令和3年度に近く減少している。包括ケア病床導入に伴い、査定のほとんどが外来であり、対策をさらに強化したい。

21) 減耗（円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
内服	438,027	333,952	85,024	154,621	261,480	228,242	228,844	518,362	102,630	249,522	242,430	121,628
注射	17,243	27,851	105,364	161,826	625,138	236,101	107,805	80,855	141,688	75,753	211,946	145,636
材料	43,565	127,890	12,000	144	30,389	0	0	0	42,462	73,725	44,762	0
合計	498,835	489,693	202,388	316,591	917,007	464,343	336,649	599,217	286,780	399,000	499,138	267,264

解説；令和6年度は内服薬と注射薬の減耗が少なかった。また、材料費の減耗は0であった。

この傾向を続けていきたい。

22) 光熱水費

	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
燃料 チップ	6,766,200	5,821,200	6,375,950	6,294,750	6,860,700	6,344,800	7,165,950	6,551,050
重油	1,209,600	640,440	829,800	809,490	1,664,300	1,098,900	820,600	770,000
電気	17,964,488	18,689,365	16,876,340	15,560,064	17,614,456	25,651,360	24,929,536	23,750,990
上水道	1,391,040	1,448,280	1,509,726	1,574,320	1,727,000	1,335,840	1,342,440	1,337,380

解説：令和6年度の光熱水費は、令和5年度と同等であった。引き続き、節電、節水など支出の削減に努力していきたい。

23) 退院時要約の2週間以内作成率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
退院患者数	426	375	383	393
2週間以内作成件数	174	335	379	393
2週間以内作成率	40.8%	89.3%	99.0%	100.0%

解説：退院時要約の2週間以内作成率は、令和3年度から集計を開始した。令和6年度は初めて100%となった。退院時要約作成支援業務に携わる医療クラークに感謝する。

2. 救急

1) さわうち病院の救急車受け入れ患者の内訳、ウォークイン来院者の内訳、ヘリ搬入・搬送数
救急車受け入れ患者の内訳

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
他院搬送	3	15	7	15	16	18	6	17	22	10	12	9
入院	43	68	71	73	63	55	66	72	68	68	77	56
死亡	8	7	9	4	6	8	12	14	7	12	7	6
帰宅	16	23	36	62	53	30	43	18	47	55	58	40
合計	70	113	123	154	138	111	127	121	144	145	154	111

ウォークイン来院患者の内訳

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
他院搬送	26	14	10	13	26	18	26	17	22	18
入院	93	74	55	59	133	117	72	62	77	69
死亡	2	6	6	3	3	2	2	6	9	8
帰宅	571	514	508	467	535	333	437	596	466	494
合計	692	608	579	542	697	470	537	681	574	589

ヘリ搬送・搬入

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ヘリ搬送	1	0	0	2	1	2	0	1	1
ヘリ搬入	3	0	0	0	0	0	0	0	1

解説；令和6年度の救急車の受け入れは、111名と過去3年に比べ減少した。コロナ禍の影響を脱したためか、あるいは、高齢人口の減少によるものか、見極めていきたい。従来と同様に約半数が入院した。帰宅は36%であり、当地の救急車の安易な利用は少ない。ウォークイン来

院患者は 589 例で例年通りであった。内訳をみると、死亡、転院、入院を合わせると 16%を占めており、トリアージの重要性が示されている。基幹病院までの距離が長いことから、ヘリコプターの利用推進が必要と考えられる。令和 6 年度はヘリ搬入、搬出は各 1 例であった。

2) 西和賀消防の活動状況とさわうち病院の救急車受け入れ状況

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
西和賀消防 救急車出動 件数 (a)	294	302	316	322	335	317	334	303	349	316	341	301
西和賀消防 救急車搬送 件数 (b)	269	280	289	297	304	295	316	278	322	299	309	266
西和賀消防 救急車搬送 人数 (c)	280	287	300	301	305	298	320	283	327	299	316	267
さわうち病 院搬送件数 (d)	67	104	111	144	129	100	124	114	142	137	144	114
カバー率 (d/b)	24.9 %	37.1 %	38.4 %	48.4 %	42.4 %	33.9 %	39.2 %	41.0 %	44.1 %	45.8 %	46.6 %	42.9 %
さわうち病 院搬送人数 (e)	69	111	115	144	129	103	125	115	143	137	151	西 114 北上 大堤 3
カバー率 (e/c)	24.6 %	38.7 %	38.3 %	47.8 %	42.3 %	34.6 %	39.1 %	40.6 %	43.7 %	45.8 %	47.8 %	43.8 %
不搬送件数 (f)	25	22	9	13	22	17	24	13	23	31	19	18
不搬送人数 (g)	25	23	11	13	22	17	24	13	23	31	19	18
救急車応需 件数率 (d/(d+f))	72.8 %	82.5 %	92.5 %	91.7 %	85.4 %	85.5 %	83.8 %	89.8 %	86.1 %	81.5 %	88.3 %	86.4 %
救急車応需 人数率 (e/(e+g))	73.4 %	82.8 %	91.3 %	91.7 %	85.4 %	85.8 %	83.9 %	89.8 %	86.1 %	81.5 %	88.8 %	86.7 %

参考；日本病院会（2023 年度集計）

● 救急車応需率 76.8%

解説；令和 6 年度の西和賀消防の救急車搬送数は 267 名で、減少しており、統計を取り始めて最低を示した。さわうち病院では西和賀消防の救急車 114 台、114 名を受けており、比較的多かった。カバー率は 43%であった。一方、救急車応需率は 86%とおおむね従来通りであった。全国集計より優れていた。

3) 令和6年度の西和賀消防管内の救急車搬送先と重症度

	死亡	重症	中等症	軽症	合計	カバー率
さわうち病院	6	19	48	41	114	42.7%
中部病院	0	11	28	13	52	19.5%
平鹿総合病院	1	8	30	16	54	20.2%
中央病院	0	1	7	4	12	4.5%
その他	0	3	21	11	35	13.1%
合計	6	42	134	85	267	
重症度の内訳	2.2%	15.7%	50.2%	31.8%		

解説；さわうち病院は、重症度に関係なく、万遍に救急車を受けている。また死亡例の全例を受け入れており、地域病院の責務を全うしている。西和賀消防管内の半分の救急車を受けている基幹病院に感謝している。西和賀町では他の地域と比べ軽症者が少なく救急車の使用は適正と思われる。

4) 令和6年度の当院に収容依頼後の不搬送事例の重症度と搬送先

	軽症	中等症	重症	死亡	総計
例数	8	8	2	0	18
割合	44.4%	44.4%	11.10%	0%	

	中部病院	平鹿総合病院	中央病院	その他	総計
例数	5	8	3	2	19
割合	27.8%	44.4%	16.7%	11.1%	

解説：令和6年度における、当院に収容依頼後の不搬送事例は18例であった。うち軽症例は約44%であった。軽症例の不搬送を減らすことが町立病院の使命であり努力したい。不搬送事例の多くを引受けてくれた平鹿総合病院、県立中部病院、県立中央病院に感謝します。

5) 雪関連事故

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	29	18	25	30	17	13	32	21	13	13	15
重症度中等度以上	8	7	11	12	9	7	12	12	8	3	8
骨折（再掲）	6	6	10	7	9	7	12	12	7	3	4
死亡（再掲）	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0

解説：令和6年度の雪関連事故は15例と少なかった。内訳では半数が骨折などの重症例であった。幸い死亡例はなかった。雪の事故は時に重症化する。多くは回避可能であり、住民に呼びかけていきたい。

3. 各部門の活動

1) 薬剤部門

処方箋の発行

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
外来院内 処方数	3,174	3,190	3,434	2,737	2,541	760	520	285	361	491	437	427
外来院外 処方数	12,350	12,512	12,655	13,296	13,426	14,439	14,946	13,822	14,524	13,859	13,315	12,887
入院処方 数	1,687	2,190	2,883	3,201	3,625	4,531	4,342	4,399	5,155	4,941	4,238	4,290

後発品の使用状況

	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6年度 (4-9月)
後発品のある 先発品＋後発 品規格単位	360,975	350,427	208,428	135,473	110,149	122,385	113,293	89,810	45,663
後発品の規格 単位	157,354	185,522	135,617	110,265	97,814	106,229	103,248	82,388	40,337
後発品の使用 割合	43.6%	52.9%	65.1%	81.4%	88.8%	86.8%	91.1%	91.7%	88.3%

解説；平成30年度に小児、透析、注射の処方を原則院外とした。それに伴い外来の院内処方は大きく減少した。一方、令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う対応としてドライブスルー診察を継続したため外来の院内処方増加している。外来の院外処方数は患者数の減少の影響を受け減少傾向にある。入院処方数は令和5年以降入院患者の減少に伴い減少している。

後発品の使用割合は90%前後と高率を維持している。後発品の関連加算取り下げたため、集計は終了する。

2) 放射線部門

検査数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
CR	2,201	2,518	3,009	2,872	2,943	3,069	3,152	3,460	3,646	3,508	3,050	3,030
CT	372	464	834	828	875	1096	969	957	1,283	1,085	940	1,033
骨密度	691	667	738	667	825	905	986	975	1,053	1,101	1,049	1,032
歯科	368	414	487	418	410	417	453	321	286	520	472	275
透視	51	54	53	43	97	125	104	116	112	104	75	59
ポータ ブル	131	161	124	24	35	9	28	15	25	30	3	1
MRI				163	139	144	168	224	175	125	101	94
合計	3,814	4,278	5,245	5,015	5,324	5765	6,100	6,068	6,583	6,473	5,690	5,524

依頼検査数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
CT	39	50	44	32	58	77	37	33	6	7	4
MRI			2	2	1	0	1	0	0	0	0
合計	39	50	46	34	59	77	38	33	6	7	4

Ai 件数（死亡例での CT 施行件数）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
Ai 件数	1	5	1	5	2	7	4	6	6	2	3

解説；令和6年度の検査は入院患者数の減少した令和5年度とほぼ同等であった。最近の2年間はポータブル撮影が減少している。MRIの減少が気になるところである。依頼検査数は大きく減少している。町内の医療機関から診断と治療を兼ねた紹介の割合が増えているためであろうか。Aiは、過去2年間は若干減少している。

3) 検査部門

検査数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
検体数	7,470	9,666	10,946	10,415	8,219	12,684	11,509	11,691	13,545	11,737	10,913	11,261
肺機能	360	321	353	93	86	94	86	10	7	2	8	56
心電図	1,021	1,065	1,353	1,250	1,249	1,224	1,136	1,409	1,546	1,485	1,451	1,488
超音波	351	378	603	598	481	470	363	362	321	389	399	369

解説；令和6年度は前年度と同等の検査件数であった。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため減少した肺機能検査は、人間ドックでのエントリーが増えたため増加している。西田技士の頑張りで超音波検査数は順調に増加している。

インフルエンザと新型コロナ検査件数と陽性率

インフルエンザ	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
検査数	256	288	58	99	704	693	600
A型	79	76	0	0	19	101	63
B型	1	0	0	0	0	13	0
合計	80	76	0	0	19	114	63
陽性率	31%	26%	0%	0%	3%	17%	11%

新型コロナ	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
検査数	0	0	77	347	1,706	1,119	769
陽性数	0	0	0	18	440	184	171
陽性率			0%	5%	26%	16%	22%

解説；インフルエンザ検査数は、ここ3年間は同等であった。令和6年度の陽性率は11%であった。令和6年度の新型コロナ検査数は減少傾向があったが、陽性率は22%と低下していなかった。

4) リハビリテーション部門

施行患者数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入院	1,144	1,368	2,409	2,905	2,968	4,005	3,852	3,783	4,542	4,530	3,666	3,662
外来	2,840	2,874	2,560	1,455	1,427	903	618	776	726	223	365	464
訪問	745	638	785	666	479	299	382	317	323	289	212	355
通所			858	1,000	831	978	933	928	891	740	854	908
合計	4,729	4,880	6,612	6,026	5,705	6,185	5,785	5,804	6,482	5,782	5,097	5,389

リハビリ介入率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院患者総数	443	366	372	398
リハビリ介入数	331	269	278	279
介入率	75%	73%	75%	70%

解説；平成30年度以降、入院患者中心の運営を行っている。令和6年度は前年度同様に入院患者減少に伴い入院リハビリ施行数が少なかった。業務量調整の意味もあり外来と訪問リハは若干増加している。通所リハは例年通りの施行数であった。全入院患者に対するPOCを含めたりハは7割を超えて推移している。

退院前リハビリ訪問指導

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	8件	15件	18件	9件	27件	16件	18件	21件	12件	15件	10件

解説；入院患者の在宅移行を安全で不安なく行なうためには、退院前リハビリ訪問指導は必須である。令和6年度は10例と若干少なかった。

5) 栄養管理部門

給食、特別加算食、透析外来食、ドック食の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院給食延数	9,834	15,903	26,291	26,164	22,676	26,014	23,595	23,809	24,359	22,190	18,502	19,228
特別加算食	2,059	1,680	6,393	6,433	5,817	7,265	7,696	7,807	7,909	7,802	6,578	6,648
率(%)	20.9%	10.6%	24.3%	24.6%	25.7%	28.4%	32.6%	32.8%	32.5%	32.5%	35.6%	34.6%
透析外来食	1,432	1,612	1,898	2,031	2,166	2,046	1,313	312	263	0	0	0
ドック食数	338	310	331	290	325	264	254	211	227	219	201	195

解説；給食部門は、令和2年度は委託から院内組織に変更する大きな変化があった。入院患者の減少に伴い令和5、6年度の給食を提供数は減少した。令和6年度の特別加算食率は35%と高く維持できた。人間ドック食は例年通りであった。

栄養指導件数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来・入院	84	51	53	79	45	80	15	37	57	27	43	57
ドック	338	310	326	300	325	260	254	211	227	219	201	195

解説；外来・入院の栄養指導件数は例年通りであった。

給食の栄養給与充足率

	基準	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
エネルギー	100%	99%	100%	100%	100%	100%	101%	100%	99%
たんぱく質	95-105%	93%	93%	96%	94%	94%	96%	95%	94%
脂質	95-105%	98%	100%	98%	100%	100%	103%	122%	122%
食塩	100%以下	99%	100%	100%	101%	99%	96%	97%	98%
カルシウム	100%以上	93%	92%	92%	88%	100%	100%	91%	92%
鉄	100%以上	113%	107%	135%	120%	123%	131%	123%	118%
ビタミン A	100%以上	97%	101%	104%	90%	101%	103%	96%	100%
ビタミン B1	100%以上	75%	75%	81%	85%	99%	102%	106%	116%
ビタミン B2	100%以上	87%	85%	92%	88%	98%	98%	94%	96%
ビタミン C	100%以上	106%	110%	124%	108%	107%	105%	91%	94%
食物繊維	100%以上	68%	68%	78%	83%	101%	106%	110%	113%

解説；給食の栄養給与充足率はたんぱく質、カルシウム、ビタミン C が 95%を下回っており対策が必要である。

入院給食嗜好調査

総合満足度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
満足	10	13	9	17	35	38	14	18
普通	7	11	14	8	12	11	8	12
不満	0	0	0	3	0	1	0	0
未回答	0	1	0	0	0	0	0	0
総計	17	25	23	28	47	50	22	30
満足の割合 (%)	58.8%	52.0%	39.1%	60.7%	74.5%	76.0%	63.6%	60.0%

解説；令和 6 年度の入院給食嗜好調査の成績は、6 割が満足と回答し、例年とほぼ同等であった。回答数の増加を期待したい。

摂食機能療法

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対象者	25	21	29	51	34	30	36	34	37	13	13
算定回数	494	362	611	784	408	467	451	467	623	148	178
算定可能日数	501	377	616	788	419	467	451	467	625	148	178
実施率 (%)	98.6%	96.0%	99.2%	99.5%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%

解説；高齢者が多く摂食嚥下機能障害患者が多いため、NST活動の一環として、摂食機能療法には力を入れている。令和6年度は前年度と同様の施行数で多くはなかった。

6) 透析、人工呼吸器使用、CART療法

透析関連事項、人工呼吸器施行数、CART療法施行数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
延べ透析患者数	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,100	3,078	2,925	2,369	2,254	2,162
延べ水質管理数	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,212	3,078	2,925	2,369	2,254	2,162
患者数 (延べ数)	15	19	20	21	20	21	22	22	21	19	20	17
患者数 (年度末)			19	19	20	21	21	20	17	16	16	13
新規導入	1	5	3	1	1	1	1	1	1	2	4	0
離脱	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
死亡	1	1	0	2	0	0	0	1	3	3	3	1
転院	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
シャントPTA 依頼件数			4	13	10	13	13	20	20	20	11	16
人工呼吸器患者	1	2	3	2	4	2	4	2	3	3	2	1
CART療法 患者数							1		1	1	0	0

解説；当町は透析患者の割合が県の平均値より1.3倍高く、腎不全患者の透析導入回避は喫緊の課題である。令和6年度の透析患者数は、死亡や転院があり減少した。透析新規導入患者はなかった。腎臓内科の活動や、一般内科でのCKD（慢性腎臓病）管理の強化し透析新規導入を減らすことが重要で、平成21年からの中長期のスパンで見ると一定程度効果は上がっていると評価できる。人工呼吸患者は1例、CART施行例はなかった。

7) 歯科

歯科医の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学校医・保育所 医活動	14.5	13	15	15.8	11.8	13	17.3	10.3	14	10	17.5	23.5
幼児・就学時健 診活動	10	11.5	11.5	9.8	7.6	7.3	8.3	4.6	6.7	5.5	5	6.5
人間ドック健診 活動	37	34	37.5	34.2	38	42.2	31.5	28	30.7	28	18	16.3
歯科保健講話	1	4.5	3.5	4	0	1	0	0	0	0	1.5	1
学校保健会活動	12	14	15	13.3	12	15.3	12.5	9	6.5	11.5	8	5.5
障害者施設健診 活動	0	0	4.5	0	2.3	0	3.5	2.5	2.7	2.7	2.5	2
計（時間）	74.5	77	87	76.9	71.7	78.8	73.1	54.4	60.6	57.7	52.5	54.8

骨粗鬆症治療関連歯科診察（顎骨壊死予防）

	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
人数	33	20	16	19	29	22	17

解説；歯科医の保健、福祉活動は、多方面にわたり精力的に行なわれている。顎骨壊死予防のための骨粗鬆症治療前歯科診察は、医科歯科連携の大きなテーマである。最近紹介症例が減少しており、経口の BP 製剤使用者を含め確実な歯科紹介を実施したい。

歯科衛生士の保健活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
実施延人数	2,145	1,939	1,871	2,063	1,674	1,495	1,562	1,441	1,230	1,280	1,255	1,088
衛生士延人数	240	202	207	217	210	108	176	162	153	170	166	152
所要時間	156 時間 10分	148 時間 10分	146 時間 40分	145 時間 25分	143 時間 35分	136 時間 35分	122 時間 30分	90 時間 20分	90 時間 20分	86 時間 時間	80 時間 時間	74 時間 30分

解説；歯科衛生士の保健活動は令和 6 年度も実施延人数が 1,000 を超え積極的に展開されている。

歯科技工士の活動

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
義歯（新義歯作成、修理、リベース）	1337	1,286	1,374	1,240	1,285	1,716	1,351	1,025	1,060	1,604	1,320	1,238
インレー、クラウン、ブリッジ、硬質レジン前装冠	357	377	246	286	320	214	292	295	369	604	615	431
自費治療（矯正、金属床、ハイブリッドなど）	0	7	23	12	19	17	12	13	16	17	15	18
* 歯科技工加算	342	329	335	289	302	326	304	271	306	283	206	269

解説；歯科技工士の活動は例年通りであった。NST 活動の中で歯科業務に関してはターゲットの半数は義歯であり、今後歯科技工士のベットのサイドや院外の活動の展開を期待している。

4. 医療の質の検証

1) 褥瘡発生

院内発生、持込褥瘡

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
院内	9	4	5	8	6	6	6	5	3	10	12	4
持込み：在宅	12	14	9	13	6	13	17	17	6	15	20	10
持込み：施設	6	7	8	5	6	4	6	8	1	20	10	6
持込み：他院	3	3	1	3	5	6	7	2	2	2	3	0
合計（持込）	21	24	18	21	17	23	30	27	9	37	33	16

院内新規褥瘡（d2以深）発生率のベンチマーキング

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計
d2以上院内発生数	4	3	3	4	6	5	5	3	6	7	4	50
入院延べ患者数	5273	8674	8446	7867	8038	7335	7901	8728	6905	5974	6708	81849
発生率	0.076 %	0.035 %	0.036 %	0.051 %	0.075 %	0.068 %	0.063 %	0.034 %	0.087 %	0.117 %	0.060 %	0.061 %

参考；日本病院会（2023年度集計）

- 院内新規褥瘡（d2以深）発生率0.13%

解説；令和4、5年度はコロナ禍の影響で院内新規発生、持ち込み共に急増した。令和6年度は改善している。ベンチマーキングでは、入院延人数を分母にし（持込褥瘡例や検討期間以前に発症した新規褥瘡例は除外）、d2以深の新規発生数を分子として算出しており、コロナ禍の時期を含め当院の新規褥瘡の発症率は日本病院会の全国集計の平均に比べ良好である。

2) 転倒転落

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計
入院延患者数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717	102,880
転倒・転落数	9	12	20	19	15	28	13	24	27	12	31	20	230
率（‰）	1.88	1.87	2.1	1.92	1.57	2.75	1.37	2.56	2.84	1.38	4.25	2.59	2.24
損傷発生数	3	6	8	6	2	6	4	8	5	5	6	2	61
率（‰）	0.63	0.93	0.80	0.61	0.21	0.59	0.42	0.85	0.53	0.58	0.82	0.26	0.59
重度損傷発生数	0	0	2	0	0	2	0	1	3	4	0	0	12
率（‰）	0	0	0.2	0	0	0.2	0	0.11	0.32	0.46	0	0	0.12

参考;日本病院会 (2023 年度集計)

- 転倒転落発生率の平均 2.83%、レベル 2 (あざ、すり傷) の障害発生率の平均 0.86%、レベル 4 (骨折など) の障害発生率の平均 0.06%

解説;転倒転落の発生率は、コロナ禍の令和 3~5 年度を除くと、日本病院会の全国集計平均値より低かった。骨折などの重度障害発生率を下げることを課題としてきたが、ここ 2 年間は骨折などの重症障害が無く好ましい傾向である。

3) MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌) の検出状況

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
新規院内発生	1	2	2	5	2	4	5	4	4	2	0	1	2
持込み	1	4	1	3	3	1	6	6	10	3	4	8	4
継続	2	7	6	5	6	1	12	5	1	1	0	0	0
外来	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0
MRSA 統計	5	13	9	14	11	7	24	15	15	6	4	9	6
MSSA*				37	20	36	24	23	22	21	21	36	17
MRSA 比				27.5%	35.5%	16.3%	50.0%	39.5%	40.5%	22.2%	16.0%	20.0%	26.1%

解説;令和 6 年度の MRSA の院内新規検出は 2 例と比較的少なかった。黄色ブドウ球菌検出例の中で耐性菌の占める割合は、過去 2 年間は 20%以下となっており適切である。

4) 培養件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
血液培養 (総セット数)	122	119	124	251	181	106	96	140	73	179	124
その他の培養	188	240	236	236	206	196	193	200	152	187	146
総培養件数	310	359	360	487	387	302	289	340	225	368	270
2 セット血液 検体採取	112	118	124	250	180	106	96	140	70	178	124
2 セット血液 検体採取率	91.8%	99.2%	100.0%	99.6%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	95.9%	99.4%	100.0%
入院述べ患者数	6,106	9,538	9,498	9,200	9,751	9,096	9,386	9,491	8,666	7,286	7,717
血液培養施行率 /1000 患者	20	12.5	13.1	27.3	17.8	11.1	10.2	14.8	8.4	24.6	16.1
陽性例	17	20	25	45	33	15	15	19	11	41	21
陽性率	13.9%	16.8%	20.2%	17.9%	18.2%	14.2%	16.7%	13.6%	15.1%	22.9%	16.9%
汚染件数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
汚染率	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	1.6%

参考;日本病院会 (2023 年度集計)

● 血液培養の2セット採取（6歳以上）80.3%

解説：令和6年度の血液培養や全培養数は前年度に比べ若干減少した。血液培養の2セット採取は定着している。1000延べ入院患者あたりの血液培養施行に関しては、回復期（亜急性病院）として目標値の設定を検討中である。血液培養陽性率（目標値5～15%）はほぼ適切と思われる。汚染率（目標値2-3%）は低く抑えられている。

5) 待時間調査

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度1回目	平成30年度2回目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
調査人数		263人	288人	465人	611人	578人	567人	574人	591人	524人	510人	474人	528人
平均待時間	来院～呼ばれた時間	104分	69.3分	70.6分	60.9分	74.3分	78.3分	60.3分	46.0分	54.8分	62.6分	47.9分	45.5分
	予約時間～呼ばれた時間		33.6分	23.4分	26.8分	36.9分	35.4分	32.5分	13.5分	22.3分	22分	22.2分	17.5分
予約患者対象	予約時間枠内の比率	47.3%	50.8%	65.7%	59.1%	43.3%	43.0%	47.0%	52.1%	53.5%	49.0%	52.5%	55.3%
	予約時間枠後30分以内の比率				82.7%	66.3%	64.5%	70.7%	77.8%	71.3%	72.7%	78.4%	77.8%

解説：令和6年度は、予約時間～呼ばれた時間の平均は17.5分で比較的短く、55%が予約時間内に診察を受けており、待ち時間は比較的良好であった。待ち時間短縮に向け、より一層の努力を継続したい。

6) 満足度調査

入院

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
	満足の率 (%)	満足の率 (%)	満足の率 (%)	満足の率 (%)	全回答	有効回答	満足の率 (%)	不満の率 (%)
	対有効回答	対有効回答	対有効回答	対有効回答			対有効回答	対有効回答
(1) 今後も当院を利用したいと思うか	95%	87%	72%	83%	16	13	85%	0%
(2) 当院を紹介したいと思うか	91%	77%	47%	72%	16	13	69%	0%
(3) 当院について総合的にどう思うか	91%	83%	83%	88%	16	15	93%	0%

外来

	令和5年度				令和6年度			
	全 回答	有効 回答	満足 の率 (%)	不満 の率 (%)	全 回答	有効 回答	満足 の率 (%)	不満 の率 (%)
			対有効 回答	対有効 回答			対有効 回答	対有効 回答
(1)今後も当院を利用したいと思うか	123	118	74.6%	1.7%	150	142	81.6%	0.0%
(2)当院を紹介したいと思うか	124	114	57.0%	2.6%	150	142	59.1%	4.2%
(3)当院について総合的にどう思うか	122	117	65.0%	4.3%	150	141	65.0%	1.4%

参考；日本病院会（2023年度集計）

- 外来；全般的評価として満足・やや満足の割合の平均 82.8%
- 入院；全般的評価として満足・やや満足の割合の平均 89.5%

解説：入院に関する満足度調査は、全国集計と変わらずに優れている。外来に関しては、設備医療機械の制限や診療科の制限があり苦戦している。ソフトの面で努力したい。

7) 職員数、医師数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
職員数	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7
常勤	46	49	50	46	46	46	55	54	52	54	56	52
臨時	14	19	24	24	30	30	23	23	26	25	27	32
小計1	60	68	74	70	76	76	78	77	78	79	83	84
包括・ 健福	3	4	2	3	1	2	2	2	常2、 臨1	常2、 臨1	常3、 臨1	常3、 臨1
小計2	63	72	76	73	77	78	80	79	81	82	87	88
委託	11	15	15	15	15	15	14	13	14	14	14	13
総計	74	87	91	88	92	93	94	92	95	96	101	101

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
医師数	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7
常勤	2→1	3	3→2	2	3	3	3	3→4	3→2	2→3	3	3	3
非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2→3	2

解説；病院の運営のためには適正なスタッフ維持が必須であり、町の協力で確保に力を入れている。令和2年度には給食業務が委託から臨時へと変わった。令和6、7年度は全職員数が100名を超える恵まれたスタッフ数で業務を行なっている。常勤医師数は、ここ2年は5名を超えており充実している。

8) 職員健診結果

		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和5年	令和6年
受診者		68	68	66	70	69	69	73
c項目を有する者(*:C評価)		34	31*	31	39	39	39	39
率		50.0%	45.6%	47.0%	55.7%	56.5%	56.5%	53.4%
フォローの必要者				18	21	24	24	16
率				27.3%	30.0%	34.8%	34.8%	21.9%
c項目延べ数		47	45	41	51	55	55	53
c項目の内訳	高血圧	8	11	12	18	15	15	11
	脂質異常	13	13	9	10	12	12	13
	貧血	5	4	5	4	6	6	5
	肝機能障害	9	7	5	5	5	5	6
	糖代謝異常	1	2	1	3	4	4	1
	尿所見異常	2	0	2	1	3	3	4
	眼底所見異常	3	2	1	1	2	2	1
	便潜血	2	1	2	1	3	3	1
	甲状腺異常	0	2	0	1	2	2	3
	胸部XP異常	0	0	0	2	1	1	1
	聴覚異常	0	0	0	0	1	1	2
	尿酸異常	2	2	2	2	0	0	3
	白血球数異常	0	0	0	1	0	0	0
	多血症	0	1	0	1	1	1	1
	心電図異常	2	0	1	0	0	0	1
胃透視異常	0	0	1	1	0	0	0	

令和6年度の職員健診で受診が勧められるc項目を有する職員は過半数おり、ここ数年と同様の傾向を示した。異常の具体的内容は、高血圧と脂質異常が多かった。受診勧奨を受けた職員へのフォローを北村顧問が担当し継続している。

5. 委員会活動

1) NST(栄養サポートチーム)活動

(1) 入院時スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入院患者数 (人) (a)	425	418	380	420	414	421	443	366	372	396
スクリーニング実施数 (人) (b)	375	371	344	388	391	413	438	359	352	378
スクリーニング実施率 (%) (b/a)	88.2%	88.8%	90.5%	92.4%	94.4%	98.1%	98.9%	98.1%	94.6%	95.5%
NST 対象一次リストアッ プ数 (人) (c)	194	175	188	238	245	262	270	252	253	246
NST 対象一次リストアッ プ率 (%) (c/b)	51.7%	47.2%	54.7%	61.3%	62.7%	63.4%	61.6%	70.2%	71.9%	65.1%
NST 対象最終リストアッ プ数 (人) (d)	100	57	51	99	66	53	35	17	38	49
NST 対象最終リストアッ プ率 (%) (d/b)	26.7%	15.4%	14.8%	25.5%	16.9%	12.8%	8.0%	6.6%	10.8%	13.0%
入院後 2 週間以内のカン ファ実施数 (人) (e)	34	34	46	91	54	49	32	16	31	45
入院後 2 週間以内のカン ファ実施率 (%) (e/d)	34.0%	60.7%	90.2%	91.9%	81.8%	92.5%	91.4%	94.1%	81.6%	91.8%

解説；NST の入院時スクリーニングは定着している。最近では約 6 割が低栄養として拾い上げてきたが、令和 4 年度では、7 割台に増加しており、入院患者の高齢化に加え、コロナ禍の影響が窺われた。低栄養患者へはタイムリーな NST 介入が必要であり、過去 2 年間は最終 NST リストアップ率が低く気になる。スクリーニングでリストアップされた症例に関する入院後 2 週間以内のカンファ実施率は、平成 29 年度以降は高率に維持されている。

(2) 病棟看護師と歯科衛生士の口腔内スクリーニング

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
実施回数 (回)	51	52	50	48	49	47	49	43	49	49
対象患者数 (人) (a)	258	223	175	309	414	286	327	286	281	282
口腔回診実施患 者数 (人) (b)	237	211	169	289	302	285	327	286	281	282
対対象患者/口腔 回診実施率 (%) (b/a)	91.9%	94.6%	96.6%	93.5%	99.3%	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
歯科医師診察必 要数 (人) (c)	64	61	49	105	81	81	94	80	48	53
歯科医師診察実 施数 (人) (d)	55	49	45	86	79	81	92	79	48	53
歯科医師診察実 施率 (%) (d/c)	85.9%	80.3%	91.8%	81.9%	97.5%	100.0%	97.9%	98.8%	100.0%	100.0%
対口腔回診実施 患者/歯科医師診 察必要率 (%) (c/b)	27.0%	28.9%	29.0%	36.3%	26.8%	28.4%	28.7%	28.0%	17.1%	18.8%

解説；病棟看護師と歯科医師、歯科衛生士が入院患者の口腔内スクリーニングすることで、早期に口腔内環境・機能に関してタイムリーに治療を開始することが可能となる。対対象患者口腔回診実施率と歯科医師診察実施率は高く維持されている。対対象患者歯科医師診察実施率は、ここ2年間は20%弱の率で行われている。

(3) 病棟看護師と歯科衛生士のスクリーニング後の歯科医の介入内容

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
義歯関連	30	54.5%	31	63.3%	24	53.3%	43	50.0%	48	60.8%	53	65.4%	48	52.2%	52	65.8%	27	56.3%	28	53.0%
外科処置	5	9.1%	3	6.1%	3	6.7%	20	23.3%	8	10.1%	2	2.5%	6	6.5%	8	10.1%	8	16.7%	7	13.2%
歯周病関連	2	3.6%	1	2.0%	0	0.0%	2	2.3%	3	3.8%	5	6.2%	2	2.2%	10	12.7%	4	8.3%	5	9.4%
その他	6	10.9%	4	8.2%	7	15.6%	4	4.7%	3	3.8%	5	6.2%	5	5.4%	5	6.3%	6	12.5%	9	16.9%
診査のみ	12	21.8%	10	20.4%	11	24.4%	17	19.8%	17	21.5%	16	19.8%	26	28.3%	4	5.1%	3	6.2%	4	7.5%

解説；口腔内環境・機能に関するスクリーニング後の歯科医の介入の内訳では義歯関連が圧倒的に多い。令和4年度以降は積極的な歯科治療介入を行なっている。

(4) 入院時のアルブミン値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
測定数	127	258	251	189	255	252	248	282	245	233	267
3.5g/dL以下	76	164	157	100	148	169	161	156	151	161	154
	59.8%	63.6%	62.5%	52.9%	58.0%	67.1%	64.9%	55.3%	61.6%	69.1%	57.7%
3.0g/dL以下	44	100	88	53	76	91	23	88	83	83	87
	34.6%	38.8%	35.1%	28.0%	29.8%	36.1%	33.5%	31.2%	33.9%	35.6%	32.6%

解説；血清アルブミン値の評価は栄養のみならず炎症が関与するとする考えが導入されつつある。古典的な意味での入院患者のアルブミン値の評価では、約6割が低栄養、約3割が中等後以上の低栄養である。

(5) 血清プレアルブミン値と血清亜鉛と血清鉄の測定件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
プレアルブミン	304	190	156	47	4	0	0	0	0	0
亜鉛	324	201	190	201	192	171	222	258	247	202
鉄				582	557	465	517	458	379	320

解説；プレアルブミンは臨床的有意性が評価できずルチンの使用は中止した。亜鉛や鉄に関しては、NSTカンファランスでの検査科の働きかけで、検査数が増加傾向あったが、令和4年以降減少傾向にあり検討が必要。

(6) 院内栄養輸液剤、院内経腸栄養剤、院外門前薬局（すみれ薬局の経腸栄養剤）の使用状況

院内栄養輸液剤の使用数（本）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
イントラリポス	100	270	410	386	100	83	88	12	15	0
ビーフリード	960	980	960	871	454	380	155	297	134	176
エルネオパ	100	99	510	328	158	23	54	8	0	73
エネフリード								195	233	164

院内経腸栄養剤の使用数（本）

	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ラコ ール 総数	264	168	604	506	728	675	681	1,026 (200)、 132 (400)	465 (200)、 44 (400)	71 (200) 、84 (400)
エン シュ ア 総数	2304	1632	408	0	0	0	165	48	リキッド 4 (250) H 38 (250)	0
ラコ ール 半固 形									54 (300)	77 (300)
イノ ラス									23 (125)	88 (125)

院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤の処方（mL・g）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
エン シュ ア	387,000	728,500	864,750	921,500	1,084,750	881,000	730,750	495,750	34,250	1,250
エン シュ アH	0	0	35,500	347,250	298,000	324,000	204,750	91,000	114,500	17,250
ラコ ール	332,600	638,800	656,000	1,030,600	1,515,000	1,712,400	1,512,600	1,296,600	1,739,800	1,297,000
ラコ ール 半固 形	0	6,000	0	34,200	0	0	0	39,600	0	0
イノ ラス									21,375	60,250
総量 (mL ・g)	719,600	1,373,300	1,556,250	2,333,550	2,897,750	2,917,400	2,448,100	1,922,950	1,909,925	1,375,750

解説：積極的な栄養管理は健康・疾患管理の基本である。院内薬局、院外門前薬局のオーダーの検証は栄養管理を反映するものであり重要である。令和5、6年度は院内外の栄養剤の使用が減少傾向にあり、その推移を注意深くみていきたい。

2) 安全管理：インシデント・アクシデント報告

インシデント・アクシデント報告の内容

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
転倒・転落	12	14	24	21	21	32	14	25	35	18	35	22
薬剤	9	24	17	15	18	8	18	17	36	23	30	45
カテーテ ル・チュー ブ管理	8	11	8	6	14	21	6	7	10	6	4	7
注射・点滴	11	11	9	6	13	16	10	16	27	12	11	13
指示出し	0	0	0	1	0							
指示受け	4	5	4	3	0							
検査	18	22	73	26	16	17	28	25	38	25	34	31

患者誤認	4	8	8	5	1	5	2	10	11	5	3*	9*
食事・栄養	12	12	16	23	7	8	7	9	8	9	10	19
ケア・処置	14	11	4	4	2	4	3	3	12	8	4	6
機械・機器	1	0	3	2	5	1	5	3	0	1	1	4
針刺し	0	0	0	1	3	0	2	1	0	4	1	0
以外	26	15	18	8	19	14	10	7	19	20	16	19
計	119	133	184	121	119	126	105	123	196	131	146	166

*:再掲 * :再掲

インシデント・アクシデント報告の障害の程度

障害のレベル	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
0	27	10	7	13	16	22	35	21	24	46
1	57	48	50	49	31	58	71	51	70	60
2	40	21	17	21	16	13	38	18	20	17
3a	11	9	13	24	15	8	16	9	7	6
3b	2	0	1	2	0	1	5	4	1	1
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	47	33	31	17	27	21	31	28	24	36
合計	184	121	119	126	105	123	196	131	146	166

インシデント・アクシデント報告の部局

報告部局	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
病棟	60	70	78	52	61	72	37	53	94	43	64	58
外来	30	25	37	22	25	23	29	26	29	33	21	29
訪問	1	1	1	0	0	0	0	0	2	2	1	3
透析	5	2	4	6	3	5	3	5	8	8	6	12
サプライ	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0
薬局	5	9	10	3	5	4	4	8	11	3	9	11
検査・放射線	1	6	38	6	5	1	12	12	24	16	16	18
リハビリ	3	5	3	2	6	6	3	5	3	1	4	2
歯科	6	7	1	5	2	3	4	0	2	3	3	0
栄養科	8	6	10	21	5	6	5	6	6	9	4	17
受付	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

事務	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0
医局	0	0	0	2	5	5	7	8	14	12	16	16
医局の割合	0%	0%	0%	2%	4%	4%	7%	7%	7%	9%	11%	10%
合計	119	133	184	121	119	126	105	123	196	130*	146	166

*令和4年度；1枚の報告書に2件の内容がある為、報告数と違ってます。

参考；日本病院会（2023年度集計）

- インシデント・アクシデント報告数：月当たり100床当たり45.4件であり、40床年間では218件
- 医師のインシデント・アクシデント報告数の割合：4.5%

解説；令和6年度のインシデント・アクシデント報告数は増えたが全国病院会の平均よりは若干少ない。部局では業務の量と質の関係で病棟が例年通り多い。透析部門と栄養科が増加しており、対策が必要である。医局は昨年度同様に全報告の10%を超えており適切である。

内容の内訳では、薬剤が最も多く、点滴と合わせてリスクの多い業務である。検査、転倒・転落、栄養・給食が続いており、前述した部局別内訳と合わせて関係部局での改善活動の継続をお願いしたい。残念ながら患者誤認が9例あった。患者自身に名乗ってもらうことなどルール遵守、ダブルチェック形骸化防止、指差し呼称確認、業務中断回避など再度基本に戻って業務の質管理を徹底してほしい、

令和6年度の障害の程度に関しては、レベル0が多く、安全管理委員会の取組みの効果が上がっている。レベル3bの事例は、令和5、6年度とも1件であり少なかった。引き続き、レベル3b以上の事例の0を目指したい。

6. 教育、研修関係

1) 研修、実習受け入れ

(1) 医科、歯科、リハビリテーション部門

	内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医科	研修医；地域医療	5	5	6	7	6	6	5	4	7	7	7
	1年次学生；医療体験実習	4	4	4	4	4	4	0	4	0	4	4
	3年次学生；地域医療	2	2	2	2		2	0	1	0	1	2
	5年次学生；地域医療				1	1	8	0	0	0	8	8
	6年次学生；地域医療										1	1
歯科	研修医；地域医療	4	7	4	5	8	11	0	4	5	6	5
	5年次学生；地域医療	4	4	4	4	4	4	2	4	6	4	6
	歯科衛生士										1	1
リハビリ部門	病院実習	2	3	3	5	6	5	14	8	12	17	14

解説；令和6年度の医科、歯科、リハビリ部門の実習生、研修医の受入れは、コロナ禍の影響を脱して活発に行われている。

(2) 看護科

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
受入れ施設	8施設	9施設	9施設	10施設	6施設	8施設	4施設	4施設	4施設	2施設	4施設	5施設
延べ日数	9 日間	26 日間	28 日間	26 日間	35 日間	38 日間	32 日間	33 日間	33 日間	4 日間	14 日間	18 日間
受入れ人数	19名	60名	70名	57名	50名	48名	48名	48名	8名	4名	18名	21名
延べ研修時間	115 時間	257.5 時間	429 時間	285 時間	371 時間	342 時間	384.5 時間	380.5 時間	80.75 時間	31.5 時間	135 時間	154 時間
担当スタッフ延べ数	42名	77名	84名	102名	65名	75名	69名	63名	53名	17名	35名	49名

令和6年度の看護科の研修、実習受け入れは、コロナ禍の影響を脱して活発に行われている。

2) 研修会の参加状況

(1) 感染対策研修

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1 回目	対象者*	86	86	82	84	81	88	87	91	88	92
	集合研修参加者	53	61	54	62	55	88	42	48	42	47
	参加率 (%)	62%	71%	66%	74%	68%	100%	47%	52%	48%	51%
	全参加率**	86%	91%	84%	82%	88%	100%	99%	100%	99%	100%
	備考	資料配布	資料配布 (アンケート実施)	ビデオ研修 (アンケート実施)	ビデオ研修 (アンケート実施)	院内講師 ビデオ研修 (アンケート実施)	院内講師 タイパ ック着 脱(個 別実 習)	院内講師 ビデオ 補修、 アンケート実 施	院内講師 ビデオ 補修、 アンケート実 施	ビデオ 研修 補修、 アンケート実 施	吐物処理の方法 ビデオ 補修、 アンケート実 施

2 回 目	対象者*	87	86	82	81	82	86	86	88	90	90
	集合研修参加者	65	65	60	54	40	40	43	88	32	37
	参加率 (%)	75%	76%	73%	67%	48%	48%	50%	100%	36%	41%
	全参加率**	93%	93%	88%	81%	86%	100%	100%	100%	100%	100%
	備考	資料配布 (アンケート実施)	ビデオ研修と 手洗い 実習	PPE 着 脱実習 (アンケート 実施)	e-ラー ニング	院外講 師 ビデオ 研修 (アンケート 実施)	院外講 師 ビデオ 補習 (アンケート 実施)	院内講 師 ビデオ 補習 (アンケート 実施)	院内講 師 動画視 聴 (アンケート なし)	院外講 師 ビデオ 補習 アンケート 実 施	院外講 師 ビデオ 補習 アンケート 実 施

解説；感染対策の研修会は全員参加が原則で、年2回の開催が義務付けられている。補講を精力的に行い、最終的には100%の受講率となっている。

(2) 安全研修参加

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1 回 目	対象者*	73	88	86	82	82	82	78	78	80	78	83
	参加者	55	73	58	57	54	48	65	38	31	27	33
	参加率	75%	83%	67%	70%	66%	58%	83%	49%	39%	35%	40%
	全参加率	75%	97%	92%	88%	84%	83%	100%	100%	100%	100%	100%
2 回 目	対象者*		87	85	81	81	81	78	75	79	80	83
	参加者		61	50	56	51	48	43	38	75	31	39
	参加率		70%	59%	69%	63%	59%	55%	51%	95%	39%	47%
	全参加率		95%	78%	85%	82%	83%	100%	100%	100%	100%	100%

*職員（委託を除く）

解説；医療安全研修会は全員参加が原則であり、年2回の開催が義務付けられている。補講を精力的に行っており最終参加率は100%に達している。

7. 福利厚生関係

平成28年度から衛生委員会を月1回定期的に開催した。

1) 夏季休暇取得率(%)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
医師	58.3	75	81.3	87.5	35	93.8	43.8	62.5	75
医療技術職	88.5	95	98.2	95.3	91.6	95.3	90	93.3	94.6
看護師	100	100	100	100	100	100	100	100	100
事務職	85	87.5	93.8	87.5	87.5	93.8	100	100	100
臨時職員・ 会計年度職員	96.3	100	100	100	100	100	99.1	100	97.2

解説；夏季休暇の取得率は、医師以外はほぼ適正を考えられる。

2) 年次休暇取得日数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
医師	4.7	1.4	1.25	2.6	2.2	1	3.5	5.98	5.1
医療技術職	7.1	7.4	7.1	6.9	9.4	9.1	14.1	12.47	9.89
看護師	7	5.7	9.2	9.2	17.2	8.6	9.5	11.58	16.11
事務職	8.1	8.2	13.5	13.5	10.8	8.1	14.9	19.75	15.38
臨時職員・ 会計年度職員	7	5.8	6.1	6.3	4.3	4.7	6.5	6.69	8

解説；年次休暇取得日数は、働き方改革の流れで増加傾向にあるが、令和 6 年度は、医師と医療技術職は低く改善が必要である。

3) 超過勤務

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
時間外勤務	2,730	2,724	3,033	3,112	1,898	1,669	1,363	2,094	2,016	1,202	717
月 80 時間以上の延人数	9	6	4	5	0	0	0	0	0	0	0
月 45 時間以上の延人数	14	13	22	26	8	1	1	0	1	0	0
年 360 時間以上の人数	1	1	2	3	3	0	0	0	0	0	0

解説；全体の超過勤務時間は減っており適切である。長時間勤務者（月 80 時間以上、月 45 時間以上、年 360 時間以上）はない。

8. その他

1) 職員のインフルエンザ予防接種率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
在院全職員 (a)	79	77	102
対象職員* (b)	77	75	98
接種者 (c)	76	74	94
全接種率 (c/a)	96%	96%	92%
修正接種率 (c/b)	99%	99%	96%

*：妊娠者、有患者、アレルギー歴を有する者除外

参考；日本病院会（2023年集計）

- 職員のインフルエンザ予防接種率の平均：89%

解説；当院の職員のインフルエンザ予防接種は90%を超えており、全国集計より高く、適正である。

2) 人間ドック

喫煙率

男性	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受診者	153	153	142	150	128	123	117	113	111	119	104
喫煙者	50	46	52	59	45	38	48	41	36	37	36
喫煙率	32.7%	30.1%	36.6%	39.3%	35.2%	30.9%	41.0%	36.3%	32.4%	31.1%	34.6%

女性	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受診者	157	167	142	158	134	131	108	110	107	89	90
喫煙者	19	17	18	13	14	13	9	9	8	4	9
喫煙率	12.1%	10.2%	12.7%	8.2%	10.4%	9.9%	8.3%	8.2%	7.5%	4.5%	10.0%

解説；一般外来や人間ドックでの指導、禁煙外来活動などにも関わらず、男女とも喫煙率の減少は果たされていない。行政、議会、教育、企業など、オール西和賀の体制でギアを上げた減塩活動が必要である。

食塩摂取量 (g/日)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男性	14.3	13.1	13	13.1	13.1	13	13.1	13.1	12.6	12.2
女性	12.7	12	11.8	11.3	11.4	12	11.3	11.4	11.4	11.3

解説；平成 27 年度から人間ドックでかるしおレシピを取り入れるなど減塩活動を強化した。その結果平成 28 年度は塩分摂取量が大きく減少した。しかし、その後は緩徐な減少に留まっている。食塩摂取量の基準である男性 8g、女性 7g に向けて、引き続き減塩活動の強化、計測が必要である。

3) シニアドック

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成元 年度	平成 2 年度	平成 3 年度	平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度
男	7	9	10	9	13	14	15	26	17	19
女	4	3	7	2	3	4	6	8	8	10
合計	11	12	17	11	16	18	21	34	25	29

解説；シニアドックは平成 26 年の当院の新築移転の際の住民との話し合いの中で誕生した。自己負担はあるが、一般のドックよりは安価であり、何より町の間ドックの内容が継続されるのがメリットである。最近増加傾向にあり好ましい。